つくしだより

平成２７年６月号

東京都精神障害者家族会連合会
（東 京 つくし会）
〒156-0056 世田谷区八幡山
3-33-1 林マンション 301
TEL/FAX:03－3304－1108
http://www.ttsukush。sakura.ne.jp/
発行者 眞壁 博美

２０１５．６．１５ 第３００号

学校教育現場における啓発について

都連会長 眞壁 博美

４月末、東京都教育委員会で、小学校から高等学校の先生方の指導にあたる「指導主事」の方が参加される連絡会で、私が話す機会を与えられました。都の特別支援教育担当指導主事等約90名が参加される場で、精神障がい者支援団体の代表として、「学校における精神保健・精神疾患教育のお願い」をしてきました。以下に概要を報告します。

●日本の精神疾患に関する現状

日本では、精神疾患の患者数は、近年急増しており、平成23年には全国で３２０万人を越す水準で、国民の40人に1人は精神科医療にかかっており、一生のうちに何らかの精神疾患に罹る人は５人に１人と言われています。誰もが罹る可能性がある疾患にも関わらず、精神保健や精神疾患に対する国民の知識・理解は乏しく、偏見が強い実態です。

世界の精神保健・医療・福祉の流れは、重度の精神障がい者であっても、地域で支援を受けながら生活していけるように進んでいます。また、精神疾患を早期発見・早期介入をして、軽症化をめざしています。

●精神疾患を発症する年齢について

統合失調症はじめ精神疾患・精神障がいを抱えている成人のうち、

・約50％の方が11歳から15歳の頃にすでに精神科的診断に該当していました。

・約70％の方が、18歳までに精神科的診断に該当していました。

という調査結果があります。要するに精神疾患の半分ぐらいの人は、10代の前半から苦しんでいたのです。

●「ニーズ調査」からわかったこと

平成21年夏に実施された「早期支援・家族支援のニーズ調査」（世田谷家族会と専門家の協働）報告書より、教育関係でわかったことは、

①約９割の家族が、病気になる前に精神疾患について学ぶ機会がなかったと回答。

②約９割の家族が、本人もしくは家族が学校教育の中で精神疾患について学ぶ機会があったら、発病初期の対応が違っていたと思うと回答。

③３人に１人は、異変が生じてから精神科医療につながるまでに１年以上かかっている。

④２人に１人は、10代から何らかの異変を体験している。

⑤最初に気づいた異変として、幻覚・妄想症状の他に、不眠・昼夜逆転、不登校、引きこもりなどの問題がそれぞれ４割近くに認められている。の５点です。

「ニーズ調査報告書」では、６つの提言をしていますが、そのうちの２項目をあげます。

1、学校教育の中で精神疾患について正しく教える。

2、精神疾患について正しい知識を社会に広く普及させる。

●東京都教育委員会に望むこと

1、中学卒業までの学校教育の中で、精神疾患に対する正しい知識を身につけさせてください。

・精神保健・精神疾患教育をカリキュラムに位置づけてください。

・学校図書の中に、精神疾患についてわかりやすく書かれた本を置くようにしてください。

2、1の実現のために、教職員に対する研修を早急に実現してください。

3、保護者・学校関係者を含めて、早期発見・早期治療に結びつく教育環境をつくってください。

都精民協の活動について

都連理事、都精民協副代表　鈴木　孝男

【都精民協の名称と組織・位置づけ】

東京都には精神保健福祉関係の施設及び団体が多くあります。精神保健福祉運動を促進するために関係諸団体が連携を取り調整を行うことは重要なことです。東京都においては東京都社会福祉協議会主催の協議会があり、それを通称「都精民協」といいます。正式の名称は「東京都精神保健福祉民間団体協議会」です。

【参加団体】

1. 東京都精神障害者団体連合会（とせい連）：精神障がい者の当事者が集まった自助グループの連合体。
2. 東京都精神障害者家族会連合会（東京つくし会）：東京の各区市町村等で活動している52の精神障害者家族会が集まった連合体。
3. 精神障害者地域生活支援とうきょう会議（とうきょう会議）：約４００の個人と東京の精神障害者団体（共同作業所連絡会、共同ホーム連絡会、授産施設連絡会、地域生活支援センター連絡会）が加盟する地域生活支援にかかわる支援者の会。
4. 東京都障がい者就業支援事業所の会（事業所の会）：精神障害者の職親の会から始まり、就労支援センター等雇用・職場訓練・就労支援を行う事業所と就労を希望する当事者に就労実践講座を行い、働く当事者の会が集まった連絡会。
5. 東京都精神障害者共同ホーム連絡会（ホーム連）：都内のグループホーム等居住事業所の連絡会。グループホームは少数職場で、職員が孤立しないため、実務で困っている相談を受け、よりよい支援が出来る活動を行っている。
6. 東京都精神障害者就労系事業所連絡会（じゅさんれん）：将来就労を希望する方の作業訓練施設22ヶ所の連絡会。「就労支援」「施設経営」の研修、情報交換を行い、現実的な情報交換を行い事業に結びつけている。
7. 公益社団法人日本てんかん協会東京支部（てんかん協会）：全国組織の東京都支部として活動。てんかんの家族、関係者、当事者間の支え合い、相談、学習、運動を展開している。広報活動を重視、公立の教職員への啓発を行っている。
8. 精神保健福祉に特化したボランティア団体の協議会「東京こころネット」。

以上８団体が隔月に都精民協出席担当者が集まり、それぞれの立場から意見をだし、現在の問題点等を協議している。

【活動】

1. 精神保健福祉における諸問題を改善してもらうように、参加団体と協議し、各団体の都へ提出した要求を効率的にまとめ東京都と交渉を行う。
2. 東京都が予算を作成する前に都議会各政党へ東京都への要求事項の要請を行う。
3. 精神障害福祉関係に特化した社会福祉制度関連情報をまとめた「道しるべ」の発刊。
4. 東京都と都精民協主催で年１回、東京都精神保健福祉相談事業講演会を開催。
5. 隔月で協議会の運営委員会と時事的問題の実践的専門家を講師にした学習会。

【まとめ】

都精民協は東京都社会福祉協議会が関係する障害者関係審議会、協議会、連絡会の一つとして独立した形で機能している。東京都社会福祉協議会は地域福祉推進委員会で社会福祉関係予算に関する提言を行い、「東京都の地域生活支援に関する提言」を行い、その中のメンバーとして都精民協の代表が委員として参加している。都精民協の活動は各団体の意見が基である。家族会単会活動を東京つくし会がまとめその意見が都精民協の活動として活かされている。

着々と進む！「2015みんなねっと関東ブロック大会in東京」の開催準備

都連副会長　植松和光

平成20年の第1回大会から7年ぶりに東京で開かれるみんなねっと関東ブロック大会。東京つくし会では、昨年の10月に理事会の中の5人のメンバーで準備委員会を設置しました。7年前の大会のことを知っている役員は殆どおらず、心配しながらの準備の出発でした。

さて、今年の関東ブロック大会の特徴は、精神障害者を地域で支える方たちの取り組みとその支援に支えられながら自立して生活を営む当事者の方の声を皆さんと共有したいと思いメインテーマとして「ひとりだって生きられる！～地域力のアップ～」としました。今回は、大会に出ていただく、講師、シンポジストをご紹介いたします。

基調講演は今年で28年目を迎えるNPO法人クッキングハウス会理事長松浦幸子さんです。松浦さんは精神障害者の「心の居場所」づくり活動を中心におき、当事者や家族の相談にのりながら、地域で暮らしていくための支援を行っています。この基調講演をもとに、シンポジウムを行います。シンポジストも多彩です。家族でありながら、二つの地域で精神障害者の住まいと就労について着実に根を張る活動をしている、NPO法人多摩草むらの会理事長の風間美代子さんは、精神障害者が地域で暮らしていくためには、生活を支援することがとても大事だと考えグループホームの設置に力を入れてきました。また、就労の場を作ることにも風間さん独特の力でネットワークづくりを進め沢山の働く場所づくりをしています　江戸川区地域活動支援センターはるえ野センター長増川ねてるさんは、WRAPのファシリテーター（進行役）としても活躍中の方です。WRAPとは元気でいるために、そして気分がすぐれないときに元気になるために自分から作るプランです。地元や全国の当事者に熱く語っています。中央区地域活動支援センターに通所する保田佳江さん。デザインの分野で就職しようと就活中に発病。その後のことは当日会場でお話してくれます！　最後は、ひだクリニック副院長の木村尚美（ひさみ）さん。全国を駆け巡り、いく先々で、当事者と家族に勇気と元気を届けています。今回は、当事者が、地域で当たり前に暮らしていくための具体的な取組みをお話していただこうと思っています。

次号では会場付近の様子をお知らせいたします。

東京つくし会理事会に参加して・雑感

中住孝典

東京つくし会理事見習の中住です。青梅市の家族会〝ほっと☺スマイル〟に所属しています。青梅市にも以前地域の家族会がありましたが、家族の高齢化や保健所などの統廃合で、家族会を支えてくれていた保健師さんの関与も薄れ自然消滅となり２０年が経っていました。障害者自立支援法ができ自立支援協議会などからも家族会設立の声が上がり、「青梅にも家族会があれば…」という家族の声も聞かれ始めていました。家族会設立の時は立川麦の会の真壁さん（現都連会長）・岡田さん、西多摩虹の会・小笠原さん、ＦＨＭの会・増田さん、山崎さん、そして当時みんなねっと理事長の川崎さんには多くのご協力をいただきました。青梅の家族会はまだ発足して１年が経過したばかりで、地元の家族会活動に力を注ぐだけで精いっぱい、余裕もない中、今回理事のお声をかけていただいたわけです。家族会設立時にお世話になったご恩を返さなければならないという思いと、自分の成長のためにという思いで、オブザーバーという立場で理事会に参加をさせていただいていますが、理事の皆さん方それぞれの能力の高さやパワフルさ、そしてキャラの濃さに毎回圧倒させられます。そして何よりも議案の多さ、それを１２～３名の役員が協力しながら都連の活動運営が進められているのを見させていただき頭が下がる思いです。こういう支えがあって東京の各単会家族会が色々な情報を入手できたり、繋がりがもてたり、運動体として国や行政に声を発信するかなめ的な存在を担っていることを痛感します。どこまでついていけるだろうかと心配ですが、共に手を携えていければと思っています。

☆賛助会員

西田　充様　２０００円

ありがとうございます。

講演会のお知らせ

☆6/21（日）「イタリアトレントＵＦＥ東京報告会」
登壇者:医師 伊藤順一郎氏、おかやまＵＦＥ副理事長 阪井ひとみ氏他　　主催：ＮＰＯ法人おかやまＵＦＥ
申込: okayama.ufe.houkokukai2015@gmail.com

☆7/11（土）「当事者の気持ちを考える」（仮題）
講師:オフィス クローバー 施設長 友利 幸湖氏
主催：新宿フレンズ　℡：03-3987-9788

☆7/18（土）「脳とこころ」（科学者が考える回復への道のり）
講師：東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成氏　主催：品川かもめ会　℡：03-3450-5207

※参加申込み･お問合せは、主催者までお願いします。

編集後記

昨年の11月28日(金)、じんかれん（神奈川県精神保健福祉家族会連合会）主催の関東ブロック大会が成功のうちに幕を閉じ、2015年の東京つくし会主催の関東ブロック大会にバトンが渡されて以来、大会準備委員のクルーは、何度も打ち合わせを重ね、作業に追われてきた。果てしなく思えたこの日々も、先日ようやく大会のチラシの発注にこぎつけて全行程の半分を過ぎた。

この間、準備委員会が最も多く時間を費やしたのが、大会の顔の一つともいえるフライヤー＝チラシの作成であった。Ａ４一枚の表と裏に過不足なく必要な情報を盛り込み、且つ誰にも読みやすく、印象深いものでなければならない。デザインをどうするか？基調となる色は何色がよいか？準備委員会の百家争鳴の議論を経て、当大会のシンポジストの一人である保田佳江さんにデザインを依頼した。素晴らしい出来栄えに一同大満足。彼女は見事に力を発揮してくれた。Ａ４の表裏それぞれに鮮やかな色彩と意匠がこらされたこのチラシは多くの人の目を引き付けるに違いない。チラシに引けを取らない充実した内容が求められる。

10月16日まで、残り半年。作業は山ほど。頑張らなくちゃ！

都連理事　徳山　尚子

つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。